

『電気之友』誌にみる九州の電気事業（IV）

東定, 宣昌
九州大学大学院博士課程

<https://doi.org/10.15017/13589>

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として. 4, pp.72-74, 1974-12-10. 財団法人西日本文化協会
バージョン：
権利関係：



『電気之友』誌にみる九州の電気事業 (Ⅳ)

東 定 宣 昌

今回は明治三十二年の一年間の記事を抜萃した。

この年の記事によると、長崎電灯、博多電灯、鹿児島電気等既設会社が相次いで拡張を企図している。そして設立時に内国製機械を使用した会社まですべて外国製機械を使用しようとしており、一方新設計画中の竹田水電が芝浦製の機械に依ろうとしていることは興味深い(記事中の日田水電会社も芝浦製を使用して開業した)。

付記すると、九州鉄道会社の列車電灯は『電気之友』第九六号五六九頁によると、明治三十二年五月六日、門司・長崎間或いは門司・八代間の「夜行急駈列車」に使用されたのが最初であるようである。

○鹿児島通信(鹿児島電友報)

鹿児島電気会社の総会及臨時会

当市電気株式会社にては一月廿二日午後一時より故西郷南洲翁の霊地城山の麓なる保養園に於て通常株主総会を催し昨年七月より十二月迄の会計報告あり該会の終るや午後四時より臨時会を開き第二発電機据付の件資本増加の件定款改正の件を議したるが満場一致を以て之を可決し終て宴会となり十二分の飲を尽して散会せり今第二発電機据付に付聞く所に依れば昨年末の調査にて取付工事の済み居る室内灯数は千六百六十五個あり之に本年に入りて着手しつつある工事八十五灯と弧光灯二個を加ふれば現発電機荷重は全量に達し今後申込の数百灯に対し到底応ずる能はざるより茲に第二発電機増設の

必要起りしもの由にて資本は五万円(千株)を増加し二株に対して一株の割合にて現在の株主に於て悉皆引受くる筈なりと云ふ

(第九二号 明治三十二年三月 二一〇〜二一一頁)

○豊州電気鉄道 は機械の据付、軌条の敷設等着々進捗し大分、別府間は既に軌道の敷敷を了れり遠からず開業の運びに至るべしと
(第九二号 明治三十二年三月 二二九頁)

○竹田水力電気 大分県直入郡竹田町の有志者黒野猪吉郎佐藤虎太の両氏は同町内に水力を利用し電灯及電力事業を起さんがため目下上京電気方式、和洋機械の便否等撰定中なりと
(第九五号 明治三十二年六月 四四一頁)

○九州通信(八月廿七日発電友報)

●久留米市の電灯 同地有志者の発起にて同市に二千灯点火の目的にて専ら計画中已に某電機会社より其見積設計書を差出せり

●博多電灯会社 二千灯発電機増設に關する用向を帯び野村社長島田支配人木原技師の三氏は不日上京の筈

●若松電灯会社 同社に於て千灯発電機増設の目的にて専ら設計中主任技手は渡辺羊三郎氏なり

●九州鉄道会社 列車電灯用発電機四十台の内三十台は已に客車に

据付済となり日々十列車電灯列車の運転あり残余の十台は客車の落成次第遅くとも十月末迄に取付の筈右落成の上は総て列車電灯付と成る由なり又門司駅構内に電灯を点する計画然し右請負工事を去る八月二十三日入札に為せしが入札者は東京電機株式会社高田商会外一ヶ所にして即日開札し金三万六千余円にて高田商会に落札せり其設計を聞くに電灯及電力使用の目的にて重なる機械類は左の如し

バブコック、ウイルクックス水管式汽罐六十馬力 二個
 アイデアル表面凝汽機六十馬力 二個
 ウェスチングハウス二相交流発電機

千百「ボルト」六十サイクル四十五「キロワット」 二個

(注、他を略す)

灯数は当分弧状灯四十二基 自熱灯十六灯換算百五十余にして機械は尅個宛総て予備なりとす電力には追て列車電灯蓄電池用発電機、クレイン、機関車給水ポンプ、タービンターブル等を動かすに電動機を使用する由猶其他各機関車所在地には電灯電力用に直流発電機を据付る由にて専ら設計中の由

●豊州鉄道会社 行橋駅構内に設置の発電所は過半落成日々点火せり総て芝浦製造所の請負にて二百灯の発電機を据付灯数は弧状灯千二百灯光四個白熱灯數十個なり主任技師は山口岱氏なり

(第九八号 明治三十二年九月 七四四～五頁)

○小倉電灯会社 予て計画中なる小倉電灯株式会社の事業は其機熟して已に電柱の建設に着手したれば遅くも本年中に点灯の運びに至るべしといふ

(第九八号 明治三十二年九月 七七〇頁)

○竹田水力電灯会社 豊後竹田にては過半発起人上京使用機械の種類優劣等調査中なりしが此度芝浦製作所の三相式発電機を採用することゝなれり

(第九八号 明治三十二年九月 七七〇頁)

○九州地方の電気事業

一、博多電灯会社に於ては増設の為め左の機械類を高田商会に注文し已に電柱増設に着手せり

百二十キロワット、ウェスチングハウス単相交流機 壹台

二百馬力タンデム複筒汽機 壹台

ウオーシングトン、ジェットコンデンサー 壹台

バブコック、ウイルクックス百四十馬力汽罐 壹台

外に大理石発電機用配電盤 壹式

猶現在のランカシャー汽罐は新汽罐据付後総てバブコック、ウイルクックス形に取換ふるよし

又同社に於ては高田商会か請負ひたる九州鉄道会社門司駅構内電灯工事の下請一切を為し本月中旬より着手来年三月には点灯の運びに至る由

一、熊本電灯会社 に於ては増設の為め左の諸器械をバグナル、

ヒレス商会に注文せり

ゼネラル電気会社交流発電機六十キロワット 壹台

アイデアル汽機百馬力 壹台

バブコック、ウイルクックス汽罐 壹台

一、長崎電灯会社 に於ては増設の為め左の諸器械を大坂電灯会社へ注文せり

ゼネラル、電気会社交流発電機六十キロワット 壹台
 スキンナー汽機白馬力 壹台

バブコック、ウイルコックス汽機 壹台
 変圧器はバックノド形を使用する由

一、福岡県門司市 に於て電灯布設の計画ありて山田貢作氏の名義にて已に其筋の認可を受け居りしか今般大坂電灯会社が同市に支社を設置する事に決し同氏名義を譲りうけ已に先月中旬同社西田代務人木村技師門司に出張線路の測量を為し発電所の位置を撰定地所を買入れたり又近日工事施行書を逓信省に提出する由器械類は総て大坂電灯会社に現在使用の交流発電機を転用する由
 (第一〇一号 明治三二年一二月 一〇〇〇一頁)

○日田の水電事業 大分県日田に於て水電動力を起し板割、精米、電灯等の事業を創始せんとの計画あることは既に報せしが目下器械買入株金募集中の由発電所は之を五和村に置き夫より送電して豆隈間に多くの工場を設置するものにて日田郡特産の材木輸出上には殊に莫大なる利益を与ふるものなり旧来の板割を為すに一坪五六十銭に近き費用を木挽職工に払ひ居りし不利益は以後之を見ざるのみならず精米の如きも之を筑後地方に輸出し十分の利益を得る見込にて就中割板事業の郡内に及ぼす収利は頗る莫大ならんと云ふ
 (第一〇一号 明治三二年一二月 一〇〇一―二頁)

※ 前号において三菱社の榎峰鉦山と猿渡鉦山を区別して述べたが、『三菱社誌』(マイクروفイルム)によると三菱社では明治二十一年七月付で「日向豊後ニ有スルトコロノ諸鉦山

(榎峰、木浦、猿渡等)ヲ併合シ日豊支山ト総称」した後、それらは日豊鉦山となり、明治二十五年五月十八日付で「日豊鉦山ヲ榎峰鉦山ト改称ス」となり、組織上両者は区別できないことを知った。訂正したい。

福岡県史

一巻―四巻(全八冊)

〈覆刻版〉福岡県発行
 定価一揃 三〇、〇〇〇円

第一巻(上下二冊)	福岡県全城(筑前、筑後、豊前)	分売致しません(在庫少数)
第二巻(上下二冊)	古代、中世(安土桃山時代まで)	分売価格 一三、〇〇〇円
第三巻(上中下三冊)	近世(幕府、藩、直方藩及び 上巻(近世、久留米藩) 中巻(近世、柳川藩) 下巻(近世、小倉藩)	分売価格 四、〇〇〇円
第四巻	福岡(秋月、久留米、柳川、 三池、香春、豊津、千束各藩)	分売価格 四、〇〇〇円

財団法人

西日本文化協会